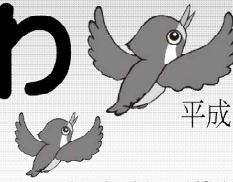


さぽせん あいかわ

第9号

平成23年10月15日発行



あいかわ町民活動サポートセンター

発行 あいかわ町民活動サポートセンター
運営委員会

住所 愛川町角田251番地1

電話 046-205-1323 FAX 046-205-1324

<http://town.aikawa.kanagawa.jp/saposen/>

「サポートセンターに託されるものは」

運営委員長 平本 幸一

あいかわ町民活動サポートセンターは、平成19年3月にオープンし、今年で5年目を迎えました。オープン当初の運営は、平成18年度の町の人材育成事業「愛づくりスクール」のメンバーのうち12人がスタッフ（臨時職員）として採用され、総勢20名の運営委員（無償ボランティア）で出発しました。

サポートセンターの日常業務をはじめ、年間活動計画の企画立案から実施まで、スタッフに関わり運営委員と一体となって事業が進められました。ゼロからの出発で大変な苦労があったと思いますが、4年間に渡って着実に成果をあげられました。23年度からは、町民公募による無償ボランティアとして、新たに10人の運営委員が町長より委嘱されました。

また、運営委員会設置要綱も改正され、運営委員の所掌事項を各種事業の立案、広報誌作成支援、窓口相談業務支援、さらに運営に関する町への提言等に整理され、スタッフとの業務を区別し、運営委員がスタッフを兼ねない組織に変わりました。

サポートセンターをよく知らずに知人の紹介から気軽に引き受け、さらに運営委員長を仰せつかり当初は本当に困惑しました。引き続き運営委員をされた3名の方や行政推進課の庶務担当等に助けられ、運営委員会もようやく軌道に乗り出しました。

利用の手引きには、「多くの町民の方が利用しやすいように、利用者みなさんと共に考え、共に創りあげていく町民皆さんが主役のサポートセンター」と書かれています。これを原点と考え、運営委員とスタッフで協力し合って進めたいと考えています。

運営委員会の所掌事項の執行はもとよりですが、広報活動を充実させ、サポートセンターの存在と誰もが気軽に利用できる施設であることのアピールが急務と思います。

また、現在100を越す団体が登録していますが、単なる登録で終わらないように連絡調整や活動支援を大事にし、活動拠点としてのサポートセンターにしていきたいです

新しい運営委員



平本 幸一
委員長



石田 安秀
副委員長



吉川 文男



木藤美智子



滝本 勝正



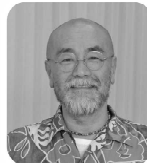
渡辺 基



小島 正



小倉 理男



市川 直久



田巻 真理

登録団体活動発表会を開催

6月25日(土)に役場庁舎分館会議室において「町民活動サポートセンター登録団体活動発表会」を開催しました。

当日は、昨年の「あいかわ町民活動応援事業」に採用された7団体のうち4団体が、採用された事業内容及び成果を発表し、また民間の助成金制度(パルシステム神奈川ゆめコープ「市民活動応援プログラム」)の説明と助成を受けた登録団体の活動内容の発表を行いました。

『とまり木』

乳幼児の親と妊婦が、妊娠中や育児上の悩みや不安などを話し合うことでそれを軽減・解消し、ゆとりと自信を持って生活できるよう子育てサークル活動を行っています。

活動内容は、親子で交流する通常サロンを月2回開催するほか「幼稚園・保育園選び体験談会」などの講習会や「クリスマス運動会」等の季節に合わせたイベントを行うなど、親子が参加しやすいよう工夫をしながら活動しています。

『宮沢の自然を守る会』

半原にある宮沢の清流を保護するため、高木の伐採や下草刈りなどを行い、そこにモミジ、カエデ、アジサイ等を植樹するとともに、水路へは菖蒲の植付けなどを行っています。急傾斜地のため、安全確保に細心の注意を払いながら、毎月作業を実施しています。

これまでに植樹した千百本以上の樹木は、宮沢の四季を彩ってきています。

また、観光スポットへの対応として、昨年大型の案内看板を設置するなど、魅力ある宮沢の里づくりを進めています。

『NPO法人ユーラシアンクラブ・愛川サライ』

音楽を通して、アジア・シルクロード文化の理解を深めることを目的に活動しています。

昨年は、ロシア連邦サハ共和国から児童太鼓研修生を受入れ、8月にアジア・シルクロード音楽フェスティバルを開催しました。11月のモンゴル文化ナーダムでは、子ども柔道家とのモンゴル相撲や野外演奏を行いました。

2月には、町内小学校で音楽や音楽劇の鑑賞

教室を行うなど、多くの方に異文化への理解を深めていただく事業を開催しています。

『小沢イルミロード実行委員会』

農業用水路の上部利用によりできた新しい歩道と休憩スペースに、クリスマスイルミネーションの飾り付けを行いました。地域の各団体からのバックアップもあり、大人だけでなく、子どもたちも飾り付けの段階から参加することで、地域の連帯の場・交流の場となっています。

今年は、節電対策としてLED灯やソーラーガーデン灯を用いるなどの工夫をしつつ、一層、魅力ある小沢イルミロードにしたいと考えています。

<市民活動応援プログラム助成団体>

『愛川シニアボランティアグループ あしボ』

平成16年に開催された社会福祉協議会主催のボランティア講座の受講者11名で設立し、平成17年から、障がいのある方の送迎や草むしり、イベント支援、傾聴などを行っています。定年退職した男性だけで構成し、社会貢献とともに体力・気力づくりを目的に活動しています。

平成21年には、車いすの点検整備に向け、社協を通じ町内介護施設のニーズ調査や施設職員との会合、資金調達、テキスト作成などを行い、平成22年7月から点検整備作業を開始しました。

今後は、公共施設などの貸出し用の車いすの点検も行い、社協などと連携し、楽しく支援活動を行っていきます。



お知らせ

10月23日(日)に開催される「第27回愛川町ふるさとまつり」に、今年も[サポセンPRコーナー]を出展します!

さまざまな展示などを用意してお待ちしておりますので、お立ち寄りください。

—サポートセンター登録団体懇談会—

サポセンカフェを開催

サポセン登録団体間の情報交換と連携、関連団体のネットワーク構築のきっかけづくりを目的に7月13日（水）にサポートセンター内において「サポセンカフェ」を開催しました。当日は、中津川に関わりのある団体がそれぞれの活動内容の報告と中津川について考えるネットワークづくりの意見交換が行われました。

『中津川仙台下クラブ』

ジャングル状況の河原（仙台下）の整備をしています。今後は、活動内容を知ってもらうため、ブログなどを活用し情報を発信するとともに、他の団体と連携し、中津川全体の景観を意識していきたいと考えています。

『日本の竹ファンクラブ』

仙台下の竹林の伐採などを定期的に行うほか、竹の子狩りなどのイベントも年4回程度実施しています。

現在、活動場所のトイレや休憩所、伐採後の竹の処理、また愛川町民の会員が少ないなどの問題を抱えていますが、これからも竹の利用にこだわっていきたいと思っています。

『あいかわ自然ネットワーク』

環境省のモニタリング1000里地調査の一般登録サイトとして、モニタリング調査を続けています。季節ごとの水環境調査のほか、毎月1回植物調査も行っています。また県の水源地河川県民参加型自然生物調査に協力しています。

『ひまわり会』

国道412号線沿いの花壇づくりを13名の会員で無理なく行っています。

『サークル愛川自然観察会』

毎月観察会を実施し、中津川には下流域までヤマビルがいることを確認しています。また植生の9割が特定外来種となっております。

中津川にアオコが発生しているという話を聞きますが、中津川に発生している藻類は、水質が良く流れが一定な流水に発生するカワシオグサという藻類だと思います。アオコは止水で富栄養化しないと発生しません。

『NPO法人ユーラシアンクラブ・愛川サライ』

音楽を通して、アジアを理解できる子供を育てることを目指して活動しています。

8月12日に文化会館で音楽フェスティバルの開催を計画しています。当日は、舞台に竹藪を演出したいと思っています。（音楽フェスティバルは多くの方にお越しいただきました。）

「ほっとする空間」をつくりたいと思い、6年前に活動を始めました。水に対する信仰がこの町にはあるので、音楽フェスティバルには雨乞いの行事である三増獅子舞にも出演していただく予定です。

『NPO法人 愛・ふるさと』

絶滅危惧種であるカワラノギクを保護するため、20回をこえる草取りを実施してきました。

現在、馬渡橋下流域でカワラノギクを増やそうとしていますが、河原が林野化して困っています。

カワラノギクは、10月に花が咲きますが、その前に、鹿に先端を食べられてしまうことがあります。

それでもカワラノギクは下のつぼみが咲く強さを持っていることを草取りと観察をして分かりました。



【主な意見】

- ・大きな目標を達成するためには、1団体では限界がある。個々の団体のなかで共通する部分で協力的体制を作ることが必要と思われる。
- ・行政の予算を待つだけでなく、すぐ取り組めるような形が大事である。
- ・中津川をカワラノギクの川としてアピールする。
- ・観光PRを行政の責任だけにしないで、この地で我々がそれぞれに取り組む。
- ・子どもたちに草取りの経験やカワラノギクの成長過程を観察しながら保護活動の難しさを学び、地道な取り組みを受け継いでいきたい。
- ・自分の地域は自分で守る。そのためには連携が必要と思われる。
- ・下谷八菅山区では、区として中津川の雑木伐採を実施している。
- ・自治会が自分たちのこととしてやっている。他の自治会にもアピールすべきではないか。
- ・行政区やボランティア団体、町がそれぞれできることを行い、それを調整しながら進めていく。さまざまな建設的な意見の交換が行われました。

東日本大震災支援活動特集

サポセン登録団体が被災地に赴き、活動しました。

平成 23 年 3 月 11 日 14 時 46 分、日本の人々のみならず世界の人々も決して忘れられない M9 の大地震「平成 23 年東北地方太平洋沖地震」が発生しました。この大地震は、今まで安全だと思われていた原子力発電所の壊滅的な破壊をも引き起こし、「東日本大震災」と総称されることとなりました。

今回、被災地に赴き、支援活動を行ったサポセン登録団体の活動を報告します。

《あいかわ町災害ボランティアネットワーク(ASVN)からの報告》

ASVN の会員により被災現地へ支援物資を搬入しました。

平成 23 年 5 月 3 日、ゴールデンウィークで渋滞する中、支援物資の搬入先である、岩手県滝沢村に到着。日本中の善意が集まった感動する場所であり、日本もまだ捨てたものじゃないという思いになりました。途中、仙台市若林区や石巻市に立ち寄り、惨劇を目の当たりにしてきました。

しかし、多くのボランティアが瓦礫の片づけや町の清掃を行ない、復興の支援をしていました。

今後、支援内容は変化をしていきますが、その必要性は、まだまだ続くと思われます。



《NPO 法人ユーラシアンクラブ・愛川サライからの報告》

6 月 23・24 日の 2 日間にわたり、宮城県南三陸町・東松島市で慰問コンサート及び炊き出し支援を実施してきました。

南三陸町では、被災者が生活する体育館で橋本岳人山による尺八界最高峰の音楽演奏を行い、被災者の皆さんから大きな拍手が湧き上がりました。岳人山は学生時代三陸町で海洋学研究所の津波調査をしていたこともあり、変わり果てた瓦礫の町に思い去来交錯したようです。

その後、東松島市小野文化センターに移動し、野菜不足の被災者のために野菜一杯の料理と、めずらしいエゾ鹿肉を使ったアイヌ料理を用意し、行列ができるほど喜ばれました。1 時間半で、料理はなくなりました。

食事後には、橋本岳人山の演奏を聞いていただき、たくさんの拍手をいただきました。

今回、全く初めての炊き出しで戸惑いながらの活動でしたが、今後も、継続して被災者の援助を心がけたいと思います。



編集後記

あいかわ町民活動サポートセンター運営委員会は、今年度から新メンバー 10 人で新たなスタートを切りました。前号で、そろそろマンネリ化を迎える時期にきているかもしれませんと記載しましたが、新メンバーが原点に戻り活動を進めています。今回の「さぽせんあいかわ」は、6 月の登録団体活動発表会と 7 月のサポセンカフェの報告があり、登録団体の横の連携に重点をおいた取組みを紹介しています。また、4 面では、東日本大震災を取り上げました。今後とも、町民活動の活性化のため、スタッフ・運営委員は努力してまいりますので、皆様方のご支援ご協力、よろしくお願いいたします。(M, W)